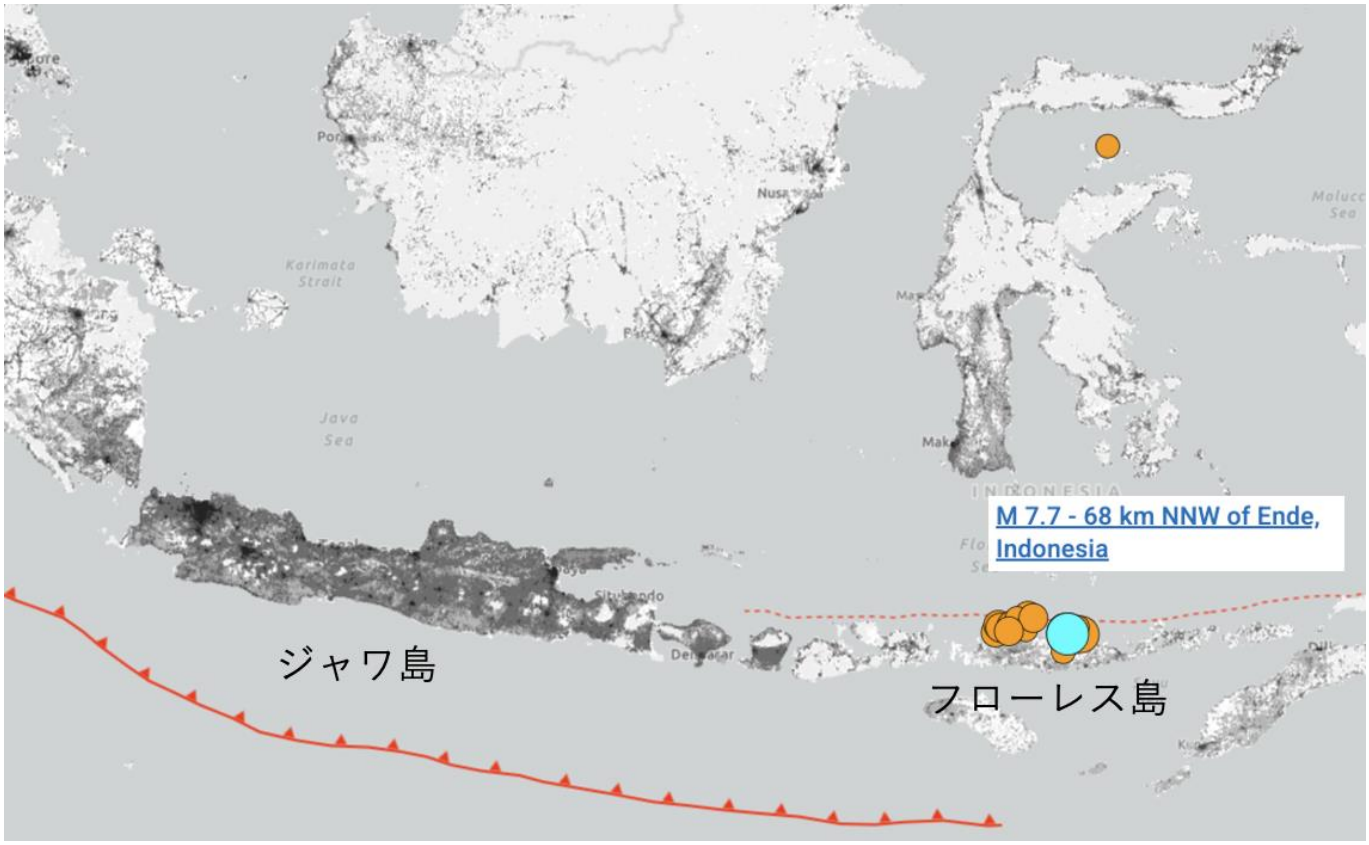


DuMA ニュースレター *2026年8月17日*

インドネシアでも大地震

インドネシア東部フローレス島で 15 日午前 4 時 58 分（日本時間同 6 時 58 分）ごろ、マグニチュード（M）7.7 の地震が発生しました。現地防災当局によると、同日夕までに少なくとも 38 人の死亡が確認されたとのことです。

すでに多くの余震が発生していますが、不幸中の幸いであったのは、ジャワ島などに比べて、フローレス島は人口密度が低い事です。現地は山岳地形でもあり、救助の難航が予想されています。次の図は8月15日の地震の発生位置です（青丸）。ジャワ島などの陸域の点々は人口密度です。



熊本地震続報

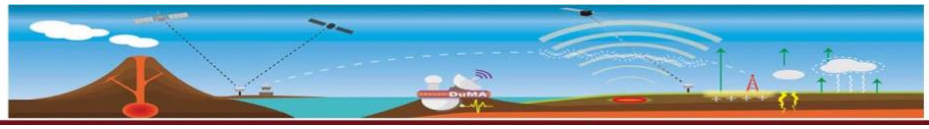
熊本地震の発生で心配されていた阿蘇山の活動活発化ですが、8月14日、噴火警戒レベルが2から3に引き上げられました。

気象庁は令和8年熊本地震との関係は不明としていますが、阿蘇山のマグマ溜まりが地震の振動を受けて、火山活動が活発化（振動でマグマの発泡が進む）した可能性は大きいと考えています。

従来は大地震と火山活動はあまり関係が無いとも考えられていましたが、震源周辺あるいは数百 km 離れた火山で、地震活動・噴気活動・地殻変動が活発化し、ときには噴火に至ることがあるとの考えが主流となっています。重要なのは、大地震が新たにマグマを作って噴火させるというより、すでに噴火準備が進んでいた火山を地震が最後に押す（トリガーする）と考えるのが現在の一般的な理解です。

たとえば、1707 年の宝永地震（M8.7-9.0）の49日後に、富士山が大噴火（宝永の噴火）したのは、顕著な例と言えると思います。

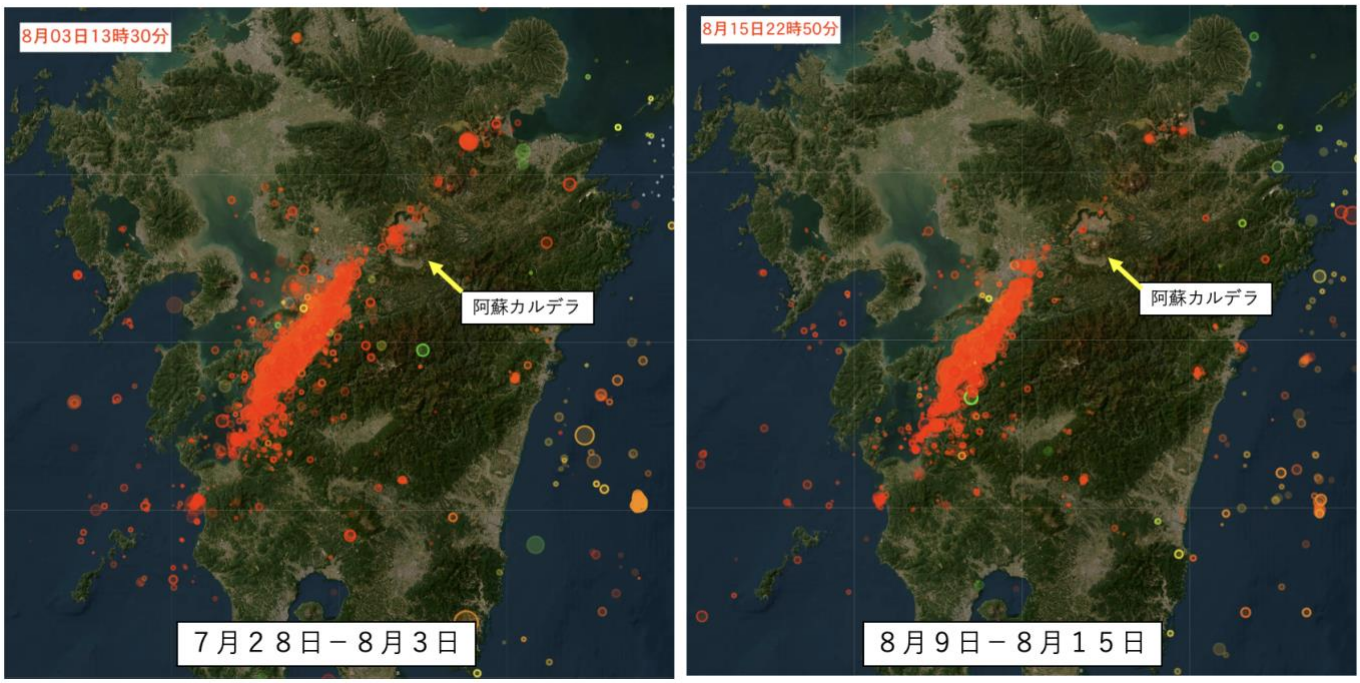
DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。 提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員） — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権はDuMA Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は DuMAが独占ライセンスを受けている登録商標です。



熊本地震発生後の阿蘇山の活動ですが、地震発生後には阿蘇山周辺で微小地震活動が活発化していました。しかし8月15日現在では、それらの微小地震活動はかなり収まってきています。

次にお示しする図は、地震発生直後の1週間（7月28日−8月3日、左側）と8月9日から15日までの微小地震活動（右側）です。色の違いは地震が発生した深さの違いを示しており、赤で示された丸印が今回の活断層に関係する浅い地震を表しています。阿蘇山（阿蘇カルデラ）での地震活動が現時点では低下していることがわかります（赤い丸が少なくなっている）。

熊本県周辺の地震活動、表示されている地震は左上の日付から過去１週間に発生したもの



熊本地震の今後ですが、少なくとも8月15日時点では、地震活動は順調に減衰しており、熊本県北部では、2016年のようにさらなる大地震が発生する可能性はかなり小さくなったと考えております。

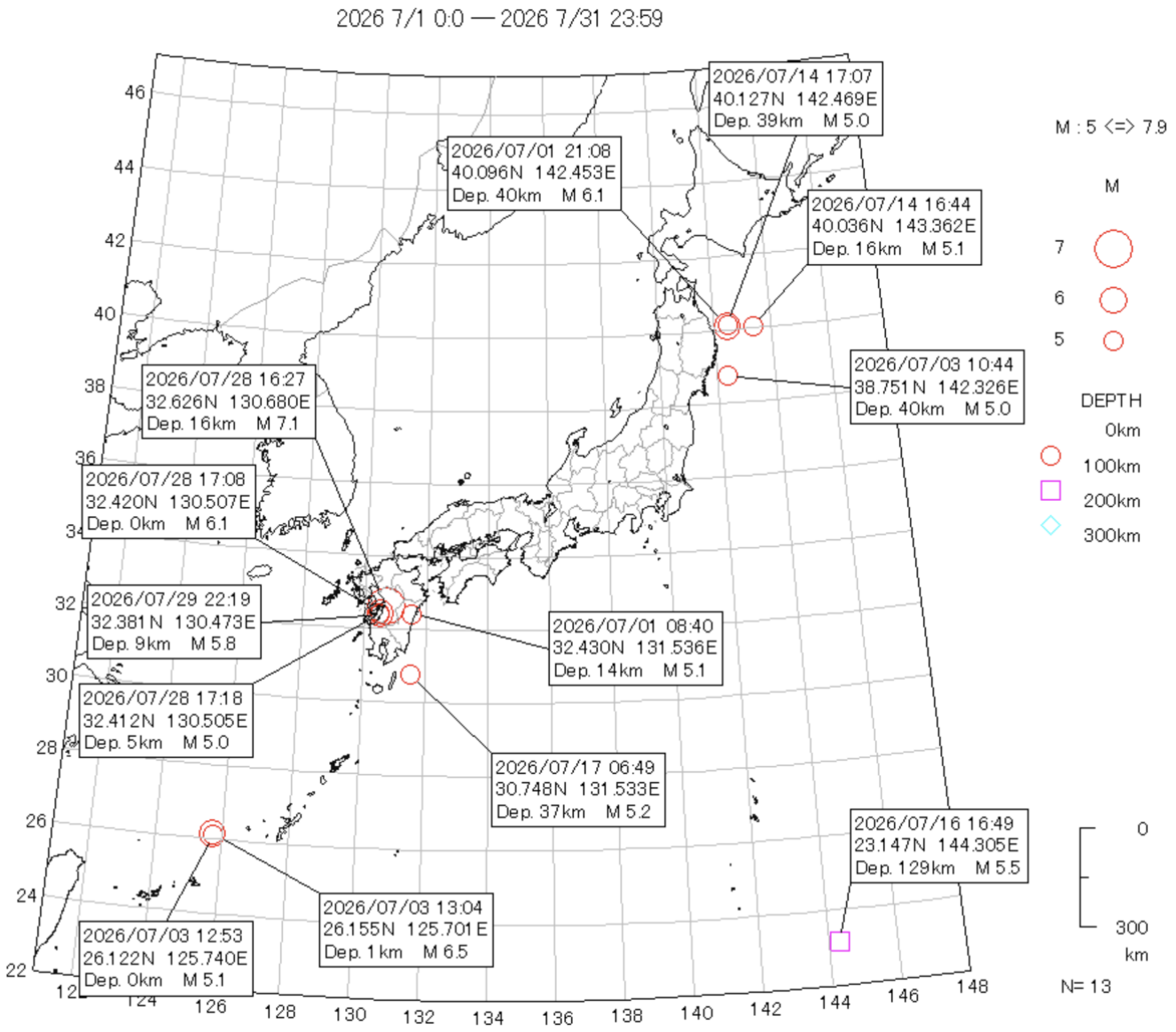
ただ、水俣市沖合の八代海では、7月28日の地震が発生したことによって、日奈久断層にさらなる歪みが蓄積したと考えられており、心配される状況です。

2026年7月の地震活動概観

7月には28日に令和8年熊本地震が発生しました。それ以外にも日本列島全域でマグニチュード5を超える地震は13個発生しました。次のページに7月に日本列島全域で発生した地震の図をお示しします。

熊本地方以外では、岩手県沖でやはり活発な地震活動が続いているのがわかります。この岩手・青森沖合では現在、1994年12月の「三陸はるか沖地震（M7.6）」の再来が危惧されています。昨年12月以降、北海道・三陸沖後発地震注意情報が2回発令されていますが、この地域で活発な地震活動が続いており、まだ「三陸はるか沖地震（M7.6）」が割れ残っていると考えられています。

DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。 提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員） — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権はDuMA Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は DuMAが独占ライセンスを受けている登録商標です。



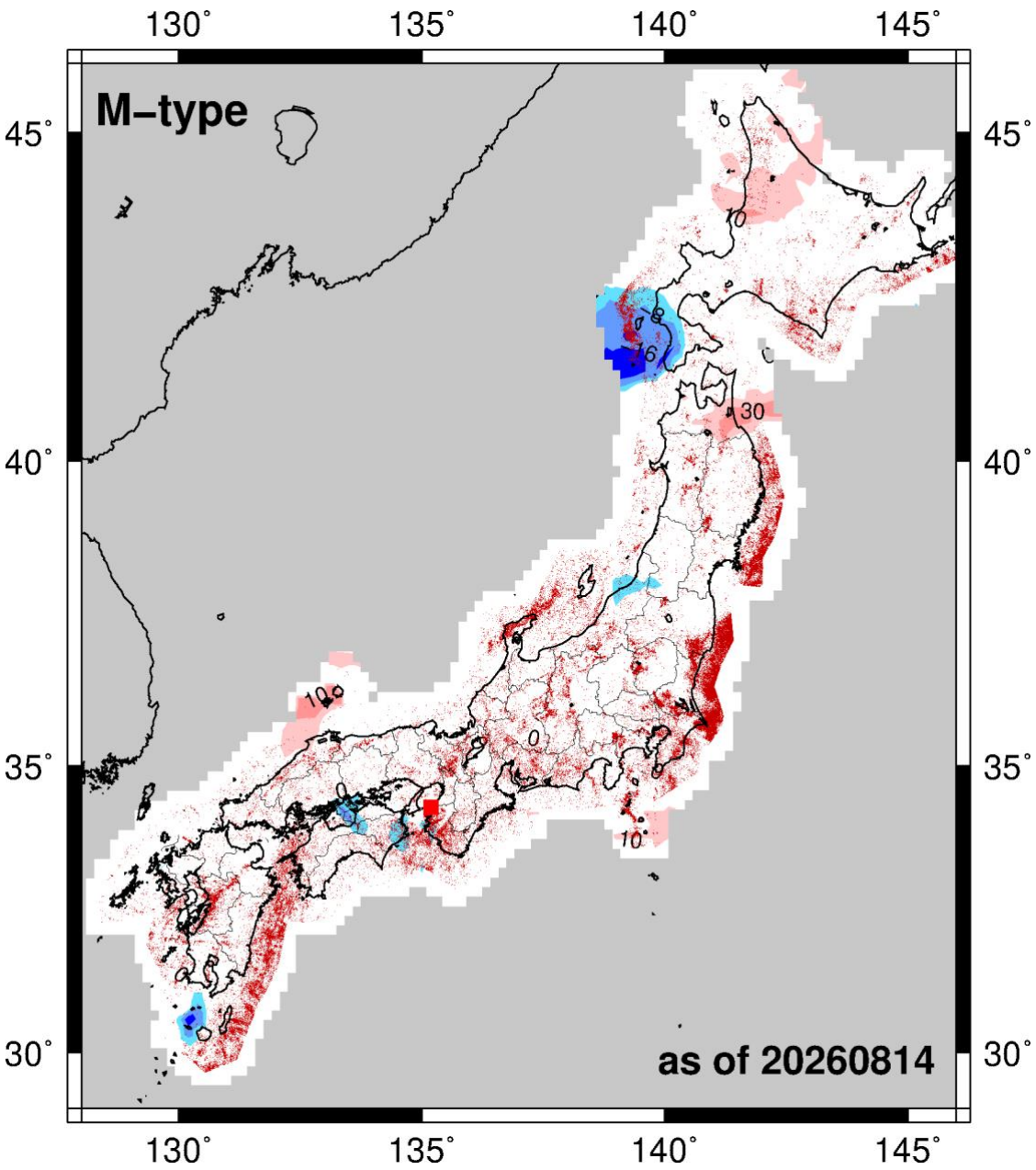
日本列島陸域の地下天気図®

7月6日のニュースレターに続き、日本列島の主に陸域（＋海陸境界域）に特化した地下天気図解析です。今週は8月14日時点のMタイプ地下天気図をお示しします。

7月と同様に、北海道西方沖での顕著な地震活動静穏化（青い領域）が確認できます。九州南方の静穏化領域は7月に比べて、静穏化が解消方向であることがわかりました。これは令和8年熊本地震の発生により、九州全体での地震活動が活発化が影響しているのかもしれません。

それと現時点では小さな地震活動静穏化領域が瀬戸内海と四国東部に出現しました。今後、この静穏化領域がどのようになっていくか注目していきたいと思います。

DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。 提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員） — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権はDuMA Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は DuMAが独占ライセンスを受けている登録商標です。



8月14日時点の M タイプ地下天気図

DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。 提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。(個人会員) — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権は DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。